

[教育プログラムの概要]

医学研究の人材育成システムは、医師卒後臨床研修(卒研)の2年必修化によって崩壊しつつある。この問題は日本の医療そのものの崩壊につながる深刻な問題であり、緊急に解決しなければならない。ARTプログラム(Advanced Research Training program、先進医学修練プログラム)は、卒研と大学院を両立させて効果的に人材育成を行う岡山大学発の大学院改革プログラムである。本計画では大学院教育を単独ではなく、医学部教育・卒研と連結して、シームレスな医学研究者育成を行う。さらに女性研究者への支援、異分野融合、国際化プログラムと連携し、多角的かつ効果的なプログラムを実施する。教育・研究の遂行には若手の力を活かすユニット型教育を採用する。これにより、日本の医学研究者育成のモデルを確立する。

これまでの問題点と本改革により期待できる点:近年の医師卒後臨床研修必修化を背景に学生の臨床専門医志向が強まり、結果として医学研究者が激減し、医学そのものの崩壊が危惧される。本改革により、MD研究者(研究医)と、生命科学を専門とするPhD研究者(医師以外の医学研究者)を増加させ、両者が協力出来る環境をつくることにより、医学研究の発展、異分野融合が実現できる。これまでに他大学ではMD/PhDプログラムやMD研究者育成プログラムが実施されてきたが、卒後研修と大学院が連携していないためほとんど成功していない。本プログラムではシームレスなプログラムによりこれを成功させ、医学研究者育

成のための日本の

National Standardを創る

(右図)。



履修プロセスの概念図

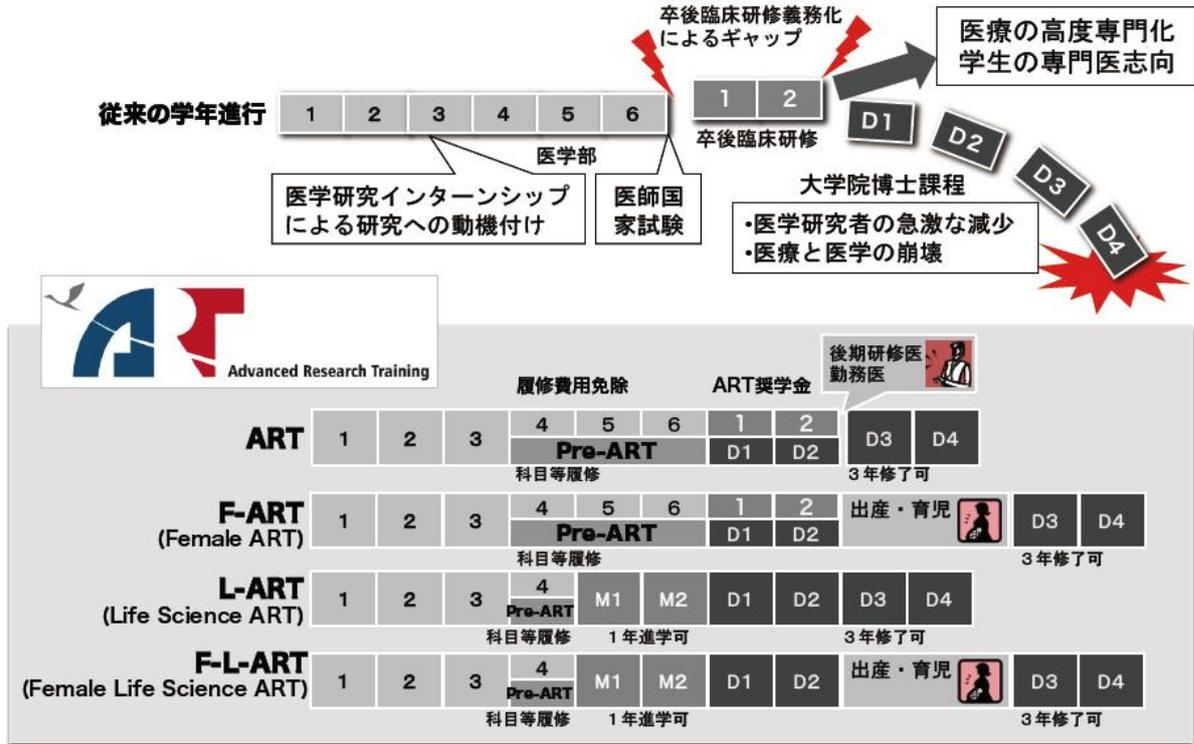


図1 ARTプログラムの学年進行(従来の制度との比較):本プログラムでは卒業研修と同時に大学院博士課程を開始する。早期履修(Pre-ART)、早期修了、奨学金、女性支援制度を設け、臨床研修や出産育児後もスムーズに大学院復帰できる環境を整備する。学位取得までの期間を従来に比べ2-3年短縮できる。大学院講義は、夜間・休日開講としているので卒業研修や学部教育との両立には問題ない。

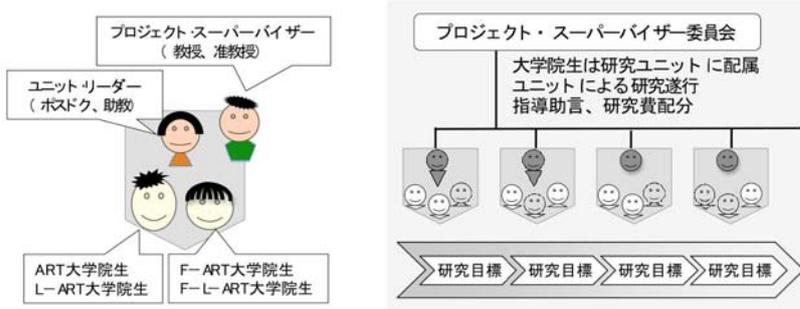


図2 研究ユニット:大学院生とユニット・リーダーからなるユニット(左)で研究を遂行する。プロジェクトスーパーバイザーはユニットに指導助言し、委員会によりARTセンターの研究全体を把握する(右)。大学院生に対しきめ細かい教育と研究指導が可能になるだけでなく、研究リーダーとしての若手育成も実現できる。

図3 各種ARTプログラムによる人材育成と支援体制

